

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
大阪ウェディング&ブライダル専門学校		平成24年3月22日		真野 正道		〒 532-0011 (住所) 大阪府大阪市淀川区西中島3-8-32 (電話) 06-7656-0267			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		鳥居 敏		〒 113-0033 (住所) 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-6151			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程		ブライダルヘアメイク&ドレス科		平成25(2013)年度	—	平成30(2018)年度		
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、ブライダル業界に従事しようとする者に必要な実践的かつ専門的な知識、技能を教授することによって、明日のブライダル業界を担う人材を養成することを目的とする。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、ヘアメイクまたはドレス業界に従事しようとする者に必要な知識、技能を教授しヘアメイク・ドレススタイリストとして活躍し、明日のブライダル業界を担う人材を養成することを目的とする。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
			62 単位	27 単位	50 単位	6 単位	0 単位	10 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
296 人	172 人		0 人		0%	9 %			
就職等の状況	■卒業生数(C)		97 人						
	■就職希望者数(D)		64 人						
	■就職者数(E)		62 人						
	■地元就職者数(F)		11 人						
	■就職率(E/D)		97 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		18 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		64 %						
	■進学者数		28 人						
	■その他								
	パート・アルバイト								
(令和 5 年度卒業生に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)									
■主な就職先、業界等									
(令和5年度卒業生)									
ブライダルヘアメイクアーティスト・ウェディング業界									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.sanko.ac.jp/osaka-bridal/								
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間				
	うち必修授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数				62 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位				
	うち必修単位数				12 単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				0 単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				1 単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位				
	教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				9 人			
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				3 人			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人					
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人					
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人					
計				12 人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				9 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
(2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
(3)教科書・教材の選定に関する事項
(4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等
またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで業界の求めるニーズを確実に捉え本校のカリキュラムや授業内容に反映する

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、分野専門委員会(別紙組織図：各専門委員会)にて提案される。提案に基づき、ブライダル分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。
教育課程編成委員会構成員は大阪ウェディング＆ブライダル専門学校と企業関係者等の役職者から成るものとし、審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。
【教育課程編成の基本方針決め・前年の問題点抽出】
企業関係者等の外部委員より、専攻分野に関した動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒアリングし、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。さらに、前年度の問題点をピックアップし企業関係者等の外部委員からの見識のある改善意見も集約する。
【教育課程編成の科目詳細決め】
委員会構成員の中の大阪ウェディング＆ブライダル専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。
【WB委員会(各ブライダル専門学校代表教員による分野会議)にて教育課程編成の決定】
委員会構成員の中の大阪ウェディング＆ブライダル専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、再度、WB委員会で協議をし、次年度の教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
林 一馬	全米ブライダルコンサルタント協会 日本オフィス所長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
西村 恭	株式会社オータニコーポレーション ホテルニューオータニ大阪支配人	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
田崎 裕二	アニヴェルセル株式会社 アニヴェルセル江坂バンケットマネージャー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
薩摩 秀二	株式会社デコルテ 技術管理部ゼネラルマネージャー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
森崎 成騎	JOBSHOP株式会社 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
佐藤 俊介	大阪ウェディング＆ブライダル専門学校 副校長		
鑛納 智子	大阪ウェディング＆ブライダル専門学校 教務主任		
九谷 愛	大阪ウェディング＆ブライダル専門学校 教務主任		
上田 有輝	大阪ウェディング＆ブライダル専門学校 教務主任		
中野 陽介	大阪ウェディング＆ブライダル専門学校		

※委員の種別の欄には企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (1月、7月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年1月11日 14:00～16:30

第2回 令和6年7月1日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会にいただいた以下の意見について対応を行っている。

“実際の現場”を想定した上で授業を展開してみてもどうか。鏡等の道具の扱いに併せて、アテンドの授業が靴を履かない状態で進んでいた。近年はスニーカーを履く人が増えており、ヒールを履く習慣がない人も多い。しかしながら、実際のウェディングの現場はヒールがあるシューズを履いていることが多い為、授業の中でも意味づけをしながら現場に近づけられる部分は近づけて授業を行うべきではないか。

【対応】:頂いた意見を担当教科教員全員に共有し、より一層現場に近い環境や緊張感、その他就職活動といった観点で動機づけをするよう統一認識していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

基本方針として、「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎新婦だけではなく、その家族、その人生も幸せにできるNo.1のプランナーを育成する」という本校人材育成方針のもとブライダル業界等との連携で実践的かつ専門的な職業教育を実践していくこと。ブライダル業界においては、知識と接客力が重要であるということは不変のものであり、双方を兼ね備えることで長く業界で活躍することができ、業界の発展にも繋がっていく。そこから本校教育理念である「技能(知識・技術・理論)」と「心(人間教育・対人基礎力)」の調和をもとに授業計画から本校教員も参加し、「技術・理論の習得レベル」及び「マナー」「コミュニケーション」など現場に即した内容を検討、そして、定期的に授業の振り返りを行い、継続的かつ改善工夫を実施している。

企業等と連携することで、より早く現場の変化や課題に対しての対応及び教育への反映ができ、本校そして業界が求める「人材の育成」に貢献できると考える。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業科目「ブライダルプロジェクトⅠ-B」の授業を1年次後期にて実施。企業の方から現在のブライダル業界の状況をヒアリングすることから始まり、現在の業界の状況から課題発見能力を養う事や課題に対する解決策を導き出す力を養う事を目的とする。また、チームに分かれて作業を行う為、他者と協同する力も養うことを目的とする。最終的には校内予選を実施し、チーム内で出た『ブライダル業界の課題』と『課題に対する提案』を企業に対してプレゼンテーションを行う。

定期的に授業内での内容・などを含め、振り返りを実施し、企業様からの評価を成績評価に反映させる。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ブライダルプロジェクトⅠB	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ブライダル業界を担う人材として業界の課題を見つけ、改善するための企画力と再現力を身につける	株式会社FLORE

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日の保育業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	企業から見た就活生に求めるものは何か	連携企業等：	株式会社パレスホテル 支配人 石井 良和 様 株式会社ノバレーゼ 人材開発部長 前野 徹志 様
期間：	令和5年8月22日(火)	対象：	クラス担任教員(17名)
内容	企業が求める人物像やスキル・大学生との比較対象と入社後の状況を学ぶことにより今後の学校運営や指導方法の検討に活かしている。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	「コーチ型ティーチャー育成セミナー」	連携企業等：	セブンアイズ 坂本 由希 様 株式会社プレジャーポケット 代表取締役 青木 栄明 様
期間：	令和5年9月20日(水)	対象：	全教職員(60名)
内容	昨年の内容である「近年の若者の心」を土台に、「褒め方や指導において刺さる関わり方」を学ぶ予定。併せて、人間の個性をタイプ別に理解することで個々にあったコーチングや声掛けの関わり方を学んだ。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	FWJが目指す業界展望及び今後業界発展のために、専門学校へ求めること・期待すること	連携企業等：	一般社団法人 未来ウェディングJAPAN
期間：	令和6年8月23日(金)	対象：	クラス担任教員(18名)
内容	一般社団法人 未来ウェディングJAPANの理事を務めるウェディング業界に精通している3名(ブランドウーシー/三原様・ポジティブドリームパーソンズ/杉元様・TAKAMIBRIDAL/高見様)をお招きし、ウェディング業界の動向と専門学校や専門学生へ求めることをパネルディスカッション形式で行う予定。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	中退者を出さない基盤づくりのノウハウ	連携企業等：	株式会社WENESS 代表取締役 伊藤太
期間：	令和6年9月13日(金)	対象：	全教職員(73名)
内容	いわゆる“Z世代”と呼ばれる若者の思考や特徴を知り、教員としての“伝え方”や“生徒が意欲を持つ為に働きかけることは何か”を学ぶ予定。その他、『傾聴』『コーチング』の基本スキルを学び、Z世代に最も有効的なコミュニケーションスタイルである“アサーティブコミュニケーション”も学ぶ予定。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。
学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員会にいただいた以下の意見について対応を行っている。
通信制高校出身の生徒は、教員の個別対応に慣れているが専門学校はクラス単位での関りとなる為、ギャップに感じるのではないかと。対応：日々の授業の中で、指導の意識を教員間で統一することはもちろん、チーム担任制を採用し、多角的なアプローチが出来る環境や個々に沿ったケアが出来る状況を整備している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月31日現在			
名 前	所 属	任期	種別
西寺 志裕子	飛鳥未来高等学校 大阪キャンパス	平成31年4月1日～令和7年3月31日(6年)	教育機関
森崎 成騎	JOBSSHOP株式会社	令和2年4月1日～令和7年3月31日(5年)	企業等委員
西村 恭	株式会社オータニコーポレーション	平成30年4月1日～令和7年3月31日(7年)	企業等委員
時任 希望	アニヴェルセル株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/osaka-bridal/information/>

公表時期: 令和6年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。
1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。
2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげること。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2)各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要
(3)教職員	教員数、組織、専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6)学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/osaka-bridal/information/>

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ブライダルヘアメイク＆ドレス科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ブライダル知識ⅠA	国家検定であるブライダルコーディネータ検定取得を目標としブライダル業界全体の知識を身につける	1前	15	1	○			○			○	
2	○			ブライダル知識ⅠB	国家検定であるブライダルコーディネータ検定取得を目標としブライダル業界全体の知識を身につける	1後	15	1	○			○			○	
3	○			未来デザインプログラムA	社会人としての考え方や行動習慣を学ぶ	1前	15	1	○			○		○		
4	○			未来デザインプログラムB	社会人としての考え方や行動習慣を学ぶ	1後	15	1	○			○		○		
5			○	ブライダルビジネスマナー	検定取得を目指す。社会人として必要な敬語・履歴書・ビジネス文書など	1前	30	2	○			○			○	
6			○	パーソナルカラー	検定取得を目指す。カラーの知識を学び、コーディネータ力・提案力を身に着ける	1後	30	2	○			○			○	
7			○	キャリアデザインⅠA	就職活動の流れを理解し、エントリー方法・履歴書作成や面接方法を身につける	1前	30	2	○			○		○		
8			○	キャリアデザインⅠB	就職活動の流れを理解し、エントリー方法・履歴書作成や面接方法を身につける	1後	30	2	○			○		○		
9			○	マーケティング	必須行事であるブライダルコンペティションと連動し、ブライダル業界のニーズや動向動向について知る	1後	15	1	○			○		○		
10			○	ドレスデザインA	衣装の知識を学び、全米ブライダル協会ドレススタイリスト検定取得を目指す。	1前	30	2	○			○			○	
11			○	ドレスデザインB	衣装の知識を学び、全米ブライダル協会ドレススタイリスト検定取得を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
12			○	インターンシップ対策	ブライダルの現場に出るための準備や社会人としての考え方や心構えを養う	1前	15	1	○			○		○		
13			○	アテンド実践A	結婚式当日のアテンダー（介添）の知識、立ち振る舞い、心得を修得する。	1前	30	1		○		○		○	○	
14			○	フラワーアレンジ	検定取得を目指す。装花の種類を理解し、様々なスタイルの作成ができる	1前	45	2		○		○			○	

15	○			ブライダルプロジェクトⅠA	必須行事である模擬挙式を創り上げることを通して、挙式の流れや役割、想像力を身につける	1前	30	1		○		○		○	○	
16	○			ブライダルプロジェクトⅠB	必須行事であるブライダルコンペティションを創り上げることを通して、企画力や発想力、プレゼンテーション能力を身につける	1後	30	1		○		○		○		○
17	○			ブライダル知識ⅡA	国家検定であるブライダルコーディネーター検定取得を目標としブライダル業界全体の知識を身につける	2前	30	2	○			○			○	
18	○			ブライダル知識ⅡB	国家検定であるブライダルコーディネーター検定取得を目標としブライダル業界全体の知識を身につける	2後	30	2	○			○			○	
19			○	キャリアデザインⅡA	就職活動に向けて具体的な対策と社会人になるための知識を身につける	2前	15	1	○			○		○		
20			○	キャリアデザインⅡB	就職活動に向けて具体的な対策と社会人になるための知識を身につける	2後	15	1	○			○		○		
21			○	ブライダルジュエリー	ブライダルに関わるジュエリーの基礎知識を学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
22	○			ブライダルプロジェクトⅡA	日頃の授業のアウトプットを行いながら、行事の準備を進めることで、主体性・協調性・実践力を身に付ける。	2前	30	1		○		○		○		
23	○			ブライダルプロジェクトⅡB	日頃の授業のアウトプットを行いながら、行事の準備を進めることで、主体性・協調性・実践力を身に付ける。	2後	30	1		○		○		○		
24			○	花嫁着付けⅠA	着付けに関する知識・技術を身に付けると同時に、検定取得を目指していく。	1前	45	2		○		○			○	
25			○	花嫁着付けⅠB	着付けに関する知識・技術を身に付けると同時に、検定取得を目指していく。	1後	45	2		○		○			○	
26			○	ベーシックメイクA	メイクの基礎テクニックを学ぶ（入門）	1前	45	2		○		○		○	○	
27			○	ベーシックメイクB	メイクの基礎テクニックを学ぶ（検定取得に向けて学ぶ）	1後	45	2		○		○		○	○	
28			○	ブライダルネイルⅠA	ネイルの基礎テクニックを学ぶ（ネイリスト技能検定3級取得に向けて学ぶ）	1前	45	2		○		○			○	
29			○	ブライダルネイルⅠB	より高いネイルテクニックを学ぶ（Jジェルネイル検定初級に向けて学ぶ）	1後	45	2		○		○			○	
30			○	ブライダルヘアアレンジⅠ	ヘアアレンジの基礎知識テクニックを学ぶ	1前	30	1		○		○			○	
31			○	花嫁着付けⅡA	着付けに関する知識・技術を身に付けると同時に、検定取得を目指していく。	2前	45	2		○		○			○	
32			○	花嫁着付けⅡB	着付けに関する知識・技術を身に付けると同時に、検定取得を目指していく。	2後	45	2		○		○			○	

33			○	ブライダル ネイルⅡ A	ネイルの基礎テクニックを学ぶ（ネイリスト技能検定3級取得に向けて学ぶ）	2 前	45	2		○		○			○	
34			○	ブライダル ネイルⅡ B	より高いネイルテクニックを学ぶ（jジェルネイル検定初級に向けて学ぶ）	2 後	30	1		○		○			○	
35			○	ブライダル エステA	エステの基礎テクニックを学ぶ	2 前	30	1			○	○			○	
36			○	ブライダル エステB	エステの基礎テクニックを学ぶ	2 後	30	1			○	○			○	
37			○	パソコンスキル	タイピング・Word・Excelの基礎を学ぶ。	2 前	30	1		○		○		○	○	
38			○	ビジネスメール	ビジネスメールの知識を学び、ブライダル業界でお客様・取引先とのやり取りが出来るようになる	2 後	30	1		○		○			○	
39			○	ブライダル メイクⅠ	ブライダルに関するメイクの基礎を学ぶ	1 後	45	2		○		○			○	
40			○	ブライダル ヘアアレンジⅡ	ヘアアレンジの基礎知識テクニックを学び技術の幅を広げる	1 後	45	2		○		○			○	
41			○	ブライダル ヘアアレンジⅢ	ヘアアレンジの基礎知識テクニック活かし技術の幅を広げる	2 前	45	2		○		○			○	
42			○	ブライダル ヘアアレンジⅣ	ヘアアレンジの基礎知識テクニック活かし技術の幅を広げアレンジ力を高める	2 後	45	2		○		○			○	
43			○	ブライダル メイク&フォトA	ブライダルのテーマ8パターンに合わせてメイクの提案ができるようになる	2 前	45	2		○		○			○	
44			○	ブライダル メイク&フォトB	学んだテクニックをアレンジし、ブライダルのフォト作品づくり	2 後	45	2		○		○			○	
45			○	洋装・和装 メイクA	ブライダルの洋装と和装に合わせたヘアメイクのテクニックを学ぶ	2 前	30	1		○		○		○	○	
46			○	洋装・和装 メイクB	ブライダルの洋装と和装に合わせたヘアメイクのテクニックを学ぶ	2 後	30	1		○		○		○	○	
47			○	ドレス スタイリングA	ドレスデザインA、Bで学んだ知識を活かし、ドレスの取扱いやコーディネートスキルを身に付ける	2 前	30	1			○	○			○	
48			○	ドレス スタイリングB	ドレスデザインA、Bで学んだ知識を活かし、ドレスの取扱いやコーディネートスキルを身に付ける	2 後	30	1			○	○			○	
49			○	ブライダル ヘアメイクⅠ	ヘアアレンジの基礎テクニックを活かし、アレンジ力技術の幅を広げる	1 後	30	1		○		○			○	
50			○	ドレス フィッティング	ドレスデザインA、Bで学んだフィッティング技術を実践し、即戦力を身に付ける。	1 後	30	1			○	○			○	

51			○	ドレスソーイング &メンテナンスⅠ	ドレススタイリストの仕事の一環である、補正・染み抜き・裾上げ・アイロン掛け等のメンテナンス業務を学ぶ	1 後	30	1			○	○			○	
52			○	ドレス カウンセリング Ⅰ	ドレススタイリストに必要なカウンセリング力、トーク力を身に付ける	2 前	15	1	○			○		○	○	
53			○	ドレス カウンセリング Ⅱ	ドレススタイリストに必要なカウンセリング力、トーク力を身に付ける	2 後	15	1	○			○			○	
54			○	ドレス コーディネート Ⅰ	ドレスフィッティングで身に付けた技術を活かし、ロールプレイングを通して接客スキルを身に付ける。	2 前	30	1			○	○			○	
55			○	ドレス コーディネート Ⅱ	ドレスフィッティングで身に付けた技術を活かし、ロールプレイングを通して接客スキルを身に付ける。	2 後	30	1			○	○		○	○	
56			○	ドレスソーイング &メンテナンスⅡ	ドレスソーイング&メンテナンスⅠの知識・技術を活かし、メンテナンス業務が出来る。また、作品作りを行う	2 前	30	1			○	○			○	
57			○	ドレスソーイング &メンテナンスⅢ	ドレスソーイング&メンテナンスⅠ、Ⅱの知識・技術を活かし、メンテナンス業務が出来る。また、作品作りを行う	2 後	30	1			○	○			○	
58			○	ブライダル ヘアメイクⅡ	ヘアアレンジの基礎知識テクニックを学び技術の幅を広げる	2 前	30	1		○		○			○	
59			○	ブライダル ヘアメイクⅢ	ヘアアレンジの基礎知識テクニック活かし技術の幅を広げる	2 後	30	1		○		○		○	○	
60			○	ブライダル メイク & フォトⅠ	ブライダルのテーマ8パターンに合わせてメイクの提案ができるようになる	2 前	45	2		○		○			○	
61			○	ブライダル メイク&フォトⅡ	学んだテクニックをアレンジし、ブライダルのフォト作品づくり	2 後	45	2		○		○			○	
62			○	インターン シップⅠ	ブライダルの現場を通して、現場力・即戦力・社会人としてのマナーを身に付ける	1 後	60	2			○		○	○		
63			○	インターン シップⅡ	ブライダルの現場を通して、現場力・即戦力・社会人としてのマナーを身に付ける	2 前	60	2			○		○	○		
64			○	インターン シップⅢ	ブライダルの現場を通して、現場力・即戦力・社会人としてのマナーを身に付ける	2 後	60	2			○		○	○		
合計					64 科目				93 単位（2115単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
本校に修業年限以上在学し所定の単位を修得し校長に卒業を認められ 卒業要件： た者に、卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 原則として教育課程に定められている順序で履修する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと